

10月4日(日曜日)「いのちの損得」

【新改訳 2017】

ルカ 9.18-27

「自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の特  
がありましょう。」(24、25 節)

主ご自身のおことばですが、よく考えて読まなければなりません。表現だけでは言われていることが矛盾しているように思われるからです。もちろん、そこには深い意味があるはず  
です。

最初の「自分のいのちを救おうと思う」は、「自分のいのち  
は自分のものとする」(マタイ 10・39 参照)ことで、いのちを利  
己的考え方と生き方で大事にすることです。しかし、それは一  
時的、物質的、肉体的、地上的です。霊と永遠の側面をないが  
しろにし、滅びます。

しかし、主なる神のために生きるならば、そのような一時的  
なものは失っても、永遠のいのちを得て真に生きる者とされ

るというのです。同時に、ここには人ひとりの尊さも示唆されています。自分の十字架を負って生きるとは、こういう意味もあるのです。

～祈り～

主よ。目先のことばかり考えて生きようとしがちな者です。あわれんでください。どうか、真の意味でいのちを得る者となれますように。

【学びのために】

しばらく前、ある事故の賠償裁判で、裁判官が、「一人一人のいのちは、地球よりも重い」と語って、新聞紙上で人々の注目を集めました。その裁判官が聖書を念頭に置いていたかどうかは不明ですが、今から2000年も前に主が教えておられたことでした。